

日本ロシア知事意見交換会議事録

日時 平成21年5月12日(火) 10:00～

場所 ホテルニューオータニ「エドルーム」

1. 出席者

別途名簿参照

2. 意見交換会議事録

■中川浩明事務総長

大変お待たせをいたしました。このたび日本ロシア知事意見交換会を開催するにあたりまして、現在我が国を訪問中でございます、ロシア連邦共和国プーチン首相にご来賓としてご臨席をいただくこととなっております。

まもなくこちらへご到着をなさいますので、みなさま盛大な拍手でお迎え下さいますようお願いいたします。

それでは意見交換会の開催に先立ちまして、プーチン首相よりご挨拶を頂戴いたします。

■ウラジーミル・プーチンロシア連邦首相

みなさん、こんにちは。麻生会長、ルシコフ市長、今回の意見交換会の参加者にご挨拶申し上げることができることが出来まして嬉しく思っています。今日の意見交換会はたしかにロシアの地域および日本の都道府県との間の直接の交流の新しい段階を示しています。その機会に麻生会長及びルシコフ市長に感謝の意を表したいと思えます。

そして、彼等が所属しているロシア21世紀委員会、全国知事会にも感謝の意を表したいと思えます。この組織こそが意見交換会を主催したからであり、もちろんロシア政府もこのイニシアティブを支持しています。地域間交流はもう数十年間ロシアと日本の関係の一環であります。

ロシアの共和国や州と日本の都道府県との間の交流は全面的に発展しています。そういうことこそが2003年に採択しましたロシアと日本の間の行動計画に基づいている方針です。我々の協働行動によって地域間経済協力は非常に強化しました。この交流の法的基盤も強化されつつありますし、知事間の交流が拡大し文化的、科学的関係が発展しています。そして非政府団体のレベルの交流も私達は非常に重視していますし、それなしでは二カ国間の国民の間の信頼への進化をはたすことは出来ないためです。

我々が抱えている難しい問題、過去から残されている問題の解決にもそれが不可欠です。ロシアと日本との間の関係の歴史は本物の友人的な関係の例は多数有ります。例えばサハリン州では北海道の医者、医療関係者の協力は忘れられないと思えます。サハリン州ではさまざまな緊急な出来事、例えばやけどを受けた子供達の支援に不可欠なものだったためです。

特に経済の面だけでなくさまざまな面でそのような地域間交流は重要なものとなっております。現在は、それはグローバルな金融危機を乗り越えるためにも重要なものとなりつつあります。ロシア連邦主体、と日本の都道府県との交流を私達が支持するのであれば、私達はお互いの力になれるわけです。地域間交流によって共同プロジェクトを私達は実施することが出来ます。つまり、私達は中小企業、中小ビジネスをはじめビジネス間交流を後押しすることができます。私達にとってそれは必要なことなのです。このように私達は地域間交流の進化を、その地理的な拡大を、そして交流の分野的な拡大を日ロ関係の将来に不可欠なものとしてみる事ができます。

今回の意見交換は非常に重要なイベントです。これからもロシアの知事たちや日本の知事たちはこのプロセスを進展させると期待しています。このような意見交換もこれから通常のものとなると期待しています。みなさんの重要な仕事に対するご成功に感謝したいと思えます。ありがとうございました。

■中川浩明事務総長

ありがとうございました。それではプーチン首相に対する御礼を麻生会長からお願いしたいと思います。それでは、お願いします。

■麻生渡全国知事会会長

全国知事会長の福岡県知事の麻生でございます。今日はプーチン首相、よく来日なさいました。そして非常にお忙しい外交日程の中この日本とロシアの知事意見交換会にご出席くださいました。心から御礼申し上げます。またプーチン首相におかれましては、2000年に大統領に就任されました。それ以来非常に強いリーダーシップのもとにロシアの高い経済発展、国民生活の向上、ロシアの繁栄に大きく貢献されておられます。深く敬意を表する次第であります。

今、私どもは世界的な大きな金融・経済の危機に見舞われております。このような中でこのたび日本とロシアとの間で経済はもとより科学技術、環境あるいは青少年、文化など多様な分野につきまして、両国政府間で話し合いが行われ、そして共に協力していく方向が定められようとしています。ぜひ、大きな成果が挙がることを期待いたしております。そして私達の知事間の会議は、このような国家間の関係をさらに基礎的な部分で強化するため地域間交流を行おうとするものであります。このような地域間交流を通じまして相互の国民間の理解が深まり、そして具体的な交流活動を通じまして、お互いに繁栄していきたいと考えております。大きな成果をこの会議で挙げたいと思っている次第でございます。

プーチン首相の益々のご発展、そしてご出席に御礼を申し上げてご挨拶いたします。そして、どうしてもプーチン首相に一言お話申し上げたいと申す知事が二人おりますので、ちょっとお時間を頂戴したいと思います。

■高橋はるみ北海道知事

ありがとうございます。北海道知事をしております。高橋でございます。私達、北海道、サハリン州と隣同士ということで、今プーチン首相に触れて頂いた医療面での協力などさまざまなお隣同士としての協力体制をやらせて頂いております。そういったなかで北海道は北方領土を行政区域に含む地域、その知事として一言お話をさせて頂きたいと思っております。北海道とロシア極東地域との友好交流、経済交流を真に意味の深いものとするためには、北方領土問題が早期に解決され日ロ間に平和条約が締結されることを、昔あの島に住んでいた旧島民の方々、そして北海道民とともに強く期待をいたしております。ありがとうございました。

■石原慎太郎東京都知事

この機会に是非、プーチン首相にシベリアを舞台にした日本とロシアの非常に大事な関係の発展についてお考えいただきたいと思っております。それは、ご承知かと思っておりますが、日本はアメリカから半ば強制されて膨大な量のアメリカの国債を買っています。その正確な数字はわかりませんが、おそらく民間も政府に督促されて買い込んだアメリカの国債は200兆円を越すでしょう。こういったものが、そのままへたするとただの紙くずになりかねない。

先年日本の橋本首相がコロンビア大学で講演したときに、日本は財政が破綻なので少しアメリカの国債を売りたいのだといった瞬間アメリカの株が暴落しました。それ以来これはタブーになりましたが、私は一昨年、アメリカへ行きまして、サイズともう一つハドソンイーストというシンクタンクの要望で講演しましたときに、売るとなると問題にあるだろうから、これは5%という高い利回りで売られて居るので、それを上回るプロジェクトというのを考案してアメリカの国債をファンドに私達は日本にとって有効なプロジェクトを転換したいのだといいましたら、アメリカは非常に反発して非難されました。

その一つの案は、日本の持っている国債を担保にして、外国からお金を集めてファンドを作る、そしてアメリカの国債の利回り5%を上回る、多分それは可能でしょう。そういったプロジェクトをシベリアの開発というものを踏まえて展開する。これは両国の政府に責任がありますから、両国の要人が出会った、公社のようなものを合併して作ることで、わたしは非常に有効な形の財政展開、開発展開がシベリアでできると思っています。

是非そういう問題について積極的にお考えいただきたい。日本はみすみす持っているアメリカの国債と沈没するつもりはありませんから。いつ紙くずになるか分からない国債ですから。アメリカはその体質をかえるといっていますが、わたしはなかなか変わらないと思います。自分の身分に相応しないローンローンでの贅沢を追求する生活習慣というのは変わらないと思います。その限りでわたしたちの持っている国債というのは大きな危険にさらされている。その打開の道を日本は日本なりに考えなくてはならない。私はその一部をアメリカで発表しましたが、非常に大きな反発をくいました。それなりに私の言っていることの正当性をアメリカが保障したと思っています。

■中川浩明事務総長

プーチン首相ありがとうございました。大変お忙しい訪日のなかでお越しを頂きまして、誠に光栄に存じます。プーチン首相が退席をなさいますので、今一度盛大な拍手でお送り下さい。まことにありがとうございました。

■ウラジーミル・プーチンロシア連邦首相

本当に、ありがとうございました。私に対し、このような配慮をいただきましたことに対し、私達はみなさまと共同の仕事というのはお互いの相互協力のためになることを願っています。

そして日本のみなさんは具体的に、今、日本の方から大変重要な提案がありました。このシベリアのプロジェクトについてでありました。このシベリアの開発ということがアメリカの国債のことに関連していると言うことでございましたが、アメリカというのはロシア側の投資に関してはしっかりといろんな義務を守ってくれています。ですからそれが続くと思っています。シベリアのことでございますが、シベリアだけでなくヨーロッパ部分、そして南の部分、そして極東、ロシアではこれらの地域ではさまざまな提案がどんどん上がってきています。そしてそれは日本を含めて世界各国の人達にとって興味があるプロジェクトなはずです。本当に今日は私ために配慮を下さりまして、そしてお迎え下さいまして、そして挨拶をする機会を下さりまして、本当にありがとうございました。心から感謝いたします。

■中川事務総長

それでは再開いたします。ここで日本ロシア知事意見交換会にあたりまして日本国の麻生太郎内閣総理大臣からのメッセージがございます。外務省の欧州局兼原参事官から代読いただきます。

■兼原信克参事官による代読

「日露知事意見交換会」に御出席の皆様、

プーチン・ロシア連邦首相の訪日にあわせて本日開催される本意見交換会の開催に際し、一言御挨拶を申し上げます。

最近の日露経済関係は目覚ましい発展を見せており、日露の貿易高はここ6年で7倍に増加しました。これをきっかけに、日露両国間の地域間の交流も、日本側では日本海側の自治体を中心に活発になってきていると伺っています。現在は、世界的な金融経済危機という厳しい環境ではありますが、地域間交流は、日露の経済関係に厚みをもたらすだけでなく、さらなる人的交流・文化交流の活発化をもたらすものでもあります。その発展は、幅広い日露間協力を進めていくために、ますます重要な要素となっています。

特に、近年ロシアは、極東・東シベリア地域を開発し、同地域をアジア太平洋へ統合させるとの立場をとっております。日本側もこうしたロシアの問題意識に応える形で、この地域における互恵的な協力を推進すべく、一昨年、「極東・東シベリアにおける日露間協力強化に関するイニシアティブ」を提案し、ロシア側の強い支持を得ています。このイニシアティブには、地域間交流の促進の項目も含まれており、日露両国政府間が各地域の取り組みを支援することとしています。

今回の意見交換会は、正にこういった動きを一層促進するものであり、その開催を歓迎いたします。今日の議論が、日露地域間における互恵的な協力を促進し、明日の日露関係のすそ野を広げる有意義なものになることを心から期待して、「日露知事意見交換会」における挨拶とさせていただきます。平成21年5月12日 日本国内閣総理大臣麻生太郎

■中川浩明事務総長

大変ありがとうございました。麻生内閣総理大臣にお礼方よろしく願いいたします。それでは、改めまして、ただいまより「日本ロシア知事意見交換会」を開催いたしたいと存じます。本日は日本、ロシアそれぞれより十七名の知事、市長のみなさまがお集まりでございます。

はじめに日本側を代表いたしまして、全国知事会会長の麻生福岡県知事から歓迎のご挨拶を申し上げます。麻生会長、お願いいたします

■麻生渡全国知事会会長

本日は、ルシコフ・モスクワ市長をはじめロシアのそれぞれの地方の知事さん方、ようこそ日本にお越しいただきました。心から歓迎申し上げます。

日露両国から17名の地方政府代表者がこのように一堂に会しまして、意見の交換ができることになりました。このことに強いイニシアティブをとられましたルシコフ・ロシア21世紀委員会議長に感謝申し上げます。

日本とロシアの地方代表の交流の歴史は古く、両国の友好親善関係の増進あるいは経済・貿易関係の発展をめざしまして、1968年から1997年のあいだに14回にわたってこの会議を開催してまいりました。

しかし残念ながらこの10年間は休止状態となっておりますが、この度、この再開に向けて意見交換を行おうというわけでありまして、私達は大変ロシア側のこの提案を歓迎し、そしてこの会議を活発に行っていきたいと考えております。

当然、国家間の外交関係はあるわけでございますが、我々地域間での交流は、モスクワ市と東京都、サハリン州と北海道など日本の都道府県や市町村との41組に及ぶ友好提携がすでに結ばれております。これを機に経済交流や青少年交流など様々な交流が行われております。我々は、今後、両国のこのような交流をさらに深めることにより、両国間の友好と繁栄に貢献できるものと確信しております。

そのためにも、地方政府間レベルでの交流・連携に積極的に取り組んでいく必要があると考えております。

本日は、双方の出席者から、それぞれの地域の実情も踏まえた率直で建設的な御意見・御提案をお聞かせいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

■高橋はるみ北海道知事

北海道とロシア極東地域とは、日本海、宗谷海峡を隔てて隣り合っているという地理的な近さ、また、ロシア極東地域の有する水産物、鉱物等の豊富な資源を背景に、貿易などを通じ密接な交流をここまで続けてきたところです。

そういったなかで、昨年はG8サミットが北海道で行われ、メドヴェージェフ大統領夫妻にご来道頂き、私達道民は光栄な機会を得たと喜んでるところです。

ロシア連邦極東地域の中でも、本日も3知事がお出席いただいている沿海地方、ハバロフスク地方及びサハリン州の3地域は、とりわけ北海道との関わりが深く、1992(平成4)年9月に「北海道とロシア極東地域との経済協力に関する常設合同委員会」が設立され、以後、経済面を中心に交流が行われてきているところです。

また、1998(平成10)年11月には、北海道とサハリン州の間ではいわゆる姉妹提携である「友好・経済協力に関する提携」を行ったところであり、2001(平成13)年1月1日に北海道サハリン事務所が、同年4月には民間団体が運営する北海道ビジネスセンターがユジノサハリンスク市に開設されたところです。

一方、2006(平成18)年9月には在北海道札幌サハリン州代表部が開設され、両地域の交流はより一層緊密になってきているところです。

こうしたなか、私は、昨年10月に沿海地方、ハバロフスク地方、サハリン州の極東3

地域を訪問させていただき、本日お集まりのダリキン知事、ホロシャヴィン知事、当時は知事で現在は極東連邦管区大統領全権代表となられたイシャーエフさんとお会いし、また当時の極東連邦管区大統領全権代表ともさせて頂きました。

これらの会談において、私と同行した経済界の方々から北海道が有している優れた寒冷地土木・建築技術や、道産食品の輸出促進、観光の分野などを中心に、経済交流を拡大していくことを提案させて頂きました。これに対しロシア側からも、北海道との経済交流を強化していきたいとお話を頂き、とりわけ北海道の寒冷地土木・建築技術への期待が示されたほか、経済交流の強化のためには航空路線の開設が必要との認識のもと、これは沿海州との関係においても、お互いに協力していくことで一致したところでございます。

また、2012年のAPEC(アジア太平洋経済協力)首脳会議が開かれるウラジオストクでは、極東の玄関口であるウラジオストク商業港やルースキー島への橋の建設現場や極東国立総合大学等を訪問させて頂きました。ハバロフスクでは、日本製の加工食品をはじめ輸入商品があふれる商業施設やビール工場を訪問させて頂き、急速に発展するロシア極東地域をこの目で確認させて頂いたところでございます。

一方、サハリン州では、ホロシャヴィン知事との間で、新たな「北海道とサハリン州との友好・経済交流促進プラン」を採択させて頂きました。このプランは、新たに友好分野での取組も位置づけるとともに、両地域の企業間における貿易、投資の拡大のための商談会や投資プレゼンテーションの開催など、具体的なビジネスの拡大に重点を置いているほか、建設や銀行など個別分野の経済協力や環境問題などについても協力することといたしております。

そして北海道銀行が、ユジノサハリンスクに支店の開設を、認められたところでございます。

昨年の訪問は、行政機関、道議会、経済界のトップなどによる訪問であり、ロシア極東地域との交流にはずみをつけることができたと思っております。関係の知事さん方のご協力に改めて御礼申し上げたいと存じます。

今後、とりわけお隣のサハリン州とは、新しいプランの着実な実現を図るとともに、ロシア極東大陸地域とも経済交流が確かなものとなるよう、関係者の方々との連携を更に密にしながら取り組んでまいりたいと考えています。

また、経済以外の交流では、火傷の重傷患者の緊急受入や文化面での絵画展、音楽コンサートなどの交流、北海道開拓記念館による博物館交流などの学術交流、民間団体による青少年交流、また市町村レベルの姉妹都市交流など様々な多面的な交流が積み重ねられてきたところであります。

なかでも、函館市はロシアとの交流の歴史が深く、昨年、日本で最初のロシア領事館が開設されて150周年を迎えたところでございます。このようなご縁で函館市にはロシア極東国立総合大学の函館校が設置されており、昨年11月にはロシア文化を紹介する「ロシアセンター」が開設され、このオープニングにはラブロフ外相がご出席のためにご来道頂いて、私も出席したところであります。

このように、我が国とロシアとの経済・友好交流には、地域レベルの交流が極めて重要であると認識。北海道はその先駆けとして、これまで活動を続けてきたものと自負しております。今回の日露知事意見交換会の開催は大変意義のあるものと考えている。北海道としても、今後の日露双方の一層の地域間交流の推進を推し進めて行きたいと考えております。

そしてもうひとつ、日露両国間には、戦後64年を経過した今も、択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島からなる北方四島の帰属の問題が、未解決のまま残されているところでございます。

北方領土は本道の行政区域の一部であり、これら4島を追われた元島民のうち、多くの方々道道内に居住しておられるなど、北方領土問題の存在は、社会的にも、経済的にも本道全体の発展に道民生活にも密接に関係しているところでございます。

本年2月のサハリンでの日露首脳会談において、領土問題については、両首脳が我々の世代で解決することで一致したとお伺いしております。

私としても、隣人同士である北海道とロシア極東地域との友好交流、経済交流に本当の意味での質的深まりをもたらすためにも、北方領土問題が早期に解決され、日露間に平和

条約が締結されることが是非とも必要であると考えております。

私は今週末から国後島と色丹島を訪問し、島の方々と交流を通じて相互理解を深めてまいりたいと考えております。本日ご出席のロシア側の首長さん方におかれましても、それぞれの自治体において日ロ間のこの改題解決のために様々な環境整備に取り組んで頂くことを強く期待するしだいでございます。ありがとうございます。

■アレクサンドル・ホロシャヴィンサハリン州知事

尊敬するみなさま、麻生会長、ルシコフ市長、尊敬する同僚のみなさま、ロシアと日本との環境の発展というのは、どんどん国のレベルから地方のレベルへ移っております。そしてその形がまず今日の私達の日本ロシア知事意見交換会の形となっております。そして、このように知事が集まり、直接意見を交換できること、そして相互協力について意見を交換できることがとても重要であります。

サハリン州にとって日本というのは対外経済活動において優先の国であります。2008年貿易高は40億ドルに達しております。これはかなり大きな数字となっております。しかしながら、この貿易高は貿易相手国として第二位です。これに大きな貢献をしているのはサハリンのエネルギーでございます。これに470万トンです。つい最近、石油ターミナルから石油が出されております。また日本に向けて新しい液化ガスが輸出されております。これは私達にとって有望な商品であり、そして日本が必要としている液化天然ガスであります。サハリンでは2月にロシアのメドヴェージェフ大統領と日本の麻生首相とがこの液化ガス工場の開設にあたってご出席されました。これは日本にとっても、ロシアにおいてもとても重要な役割を占めているプロジェクトであります。日本にとってロシアはとても信頼性におけるエネルギー資源の供給国であります。ロシアと日本との協力関係において、特にエネルギー関係において三井、三菱といった大きな日本の企業がサハリンの大陸棚開発に参加しておりますが、そしてサハリン1、サハリン2といった大きなプロジェクトのオペレータでもあります。そしてサハリン大陸棚の大きな資金提供をしてくれているのが日本の国際協力銀行であります。日本からのたくさんの投資が行われております。30億ドルにわたっております。様々な経済の分野に対して日本の実業界がサハリンの経済に興味を示しております。そしてサハリンは実際にサハリン大陸棚開発、そしてたんか？資源の生産という点で大きな役割を果たしてくれていますし、実際にプロジェクトを実現しております。そのほかにサハリンの大きな資源は水産資源でございます。その額は700万ドル以上となっております。

そのほかにいわゆる石炭、木材、その他の品物についても輸出できると思っております。そして地方協力について、北海道とサハリンは一番大きな関係を持っております。高橋知事が私達との協力が10周年を迎える、つまり友好協定の締結から10周年を迎えることを指摘されましたが、サハリンと北海道の関係というのは肯定的に発展しており、私達サハリンも人道分野、そして文化交流、銀行分野でも多くの交流を行っております。昨年、私は高橋知事と2回もあいました。私達のサハリンと北海道との関係がより質の高い経済レベルに移っていくことを願っております。

私達ロシア政府というのは、いわゆる極東地域の発展に関しまして、目的を持って様々なプログラムを作っております。極東発展プログラムというのが出来、その中でインフラの整備、エネルギー分野のインフラを発展させるということになります。そして極東の地方と日本の地方との統合を図ることが重要だと政府は申しております。私達は追加の輸出支援、それは投資を誘致することであり、高い付加価値をもった製品を輸出することです。その輸出品を製造するという事です。サハリン州としては、追加の様々な付加価値の高い輸出品目を作るプロジェクトを持っておりますので、日本のみなさまの興味があるのでしたら、私達はお見せすることが出来ます。今年の9月と10月に私達は東京でサハリン州のプレゼンテーションを行う予定です。私達が持っているこのプロジェクトの中で優先プロジェクトがあります。まず、その項目は電力施設の近代化であります。その投資額は20億ドルとなっております。それから輸送インフラの発展というプロジェクトもあります。

また、ガス化学工業における発展でありまして、その中でも炭化水素資源の品物と

して良いものを作りたいと思っております。サハリンにはたくさんものがあります。そしてサハリン州には千島列島が入っております。そして千島列島というのは素晴らしい観光対象地域であります。

また、私達は中小企業も発展させていきたいと思っております。ここにいる日本のパートナーのみなさま方、私達のサハリン州のプレゼンテーションに参加して下さることを願っています。また、様々な地方団体とたくさんの協力をしていきたいと思っております。つまり、人道交流、教育交流、スポーツ交流であります。こういった交流というのは両国の相互理解を深めるために大変重要であります。私達サハリン州というのは歴史的にも地域的にも日本の隣国であります。そしてこれらの交流を深めることはいわゆる経済活動の協力にも寄与するものと考えております。

私達は輸送インフラ、特に日本とサハリン州との間に輸送インフラを発展させております。定期的に航空便が運航しておりますし、またフェリーの運航も行われております。

私達サハリン州としては協力が相互に最大限に利益のあるものとして、私達は最大限に努力することをここでお約束したいと思っております。ありがとうございました。

■佐竹敬久秋田県知事

私はこの4月に秋田県知事に就任いたしました。その前は8年間、秋田市長を勤めまして、全国市長会の会長も勤めております。ロシアへはソビエト時代の1976年に初めて訪れて以来、度々訪問しております。

特に2004年に訪れたカムチャツカは思い出深いものがありました。最近では、昨年8月にウラジオストクを訪れまして、ウラジオストク政府とで貿易関係の交渉を行っております。

秋田県の紹介をいたします。秋田県は、ここ東京から600キロ程北に位置している県であります。日本海側に面しまして、ロシアとは非常に近い位置関係にあります。本県とウラジオストクとの距離は約800キロであります。

古くから、米を中心とした農業や、豊富な森林資源、鉱山資源をベースとした、林業や木材産業、鉱業などが盛んであります。

近年は先端技術を駆使した電気機械産業、環境型のリサイクル産業などが、秋田県のリーディング業種となっております。

秋田県とロシアとの経済交流であります。本県とロシアとは、第二次世界大戦前からの北洋材の輸入などで経済的な結びつきが深い地域であります。

近年では、1993年に、ハバロフスク地方、沿海州地方と、交流趣意書を取り交わし、経済交流を進めてきております。

例えば、経済交流の基礎となる物流ルートであります。1999年に、沿海地方ポシエツ港と秋田港とのコンテナ定期航路を開設いたしております。残念ながら現在は不定期化しております。現在はウラジオストク港などのコンテナ船、RO/RO船の定期航路開設に向けた活動に取り組んでいます。

また、秋田港を窓口として、日本国内の鉄道とシベリア鉄道とを海上輸送で結ぶ取り組みも始めています。

この「シーアンドレール構想」は、モスクワやサンクトペテルブルグなどヨーロッパロシアと日本とを結ぶ、温室効果ガスの排出の少ない、環境に優しい鉄道による物流ルートとして、国内の自動車製造業や貿易機関から注目されております。国による実証実験は昨年2月に終わっておりまして、その効果が認められております。

秋田県としてはロシアの経済成長の可能性は大きいと考えており、今後もこの構想の実現に向けて、行政交流、商談会や見本市の開催などを通じ、極東地域を始め、シベリア鉄道沿線の都市やモスクワ、サンクトペテルブルグなどの経済交流を推進していきたいと考えております。

秋田県とロシアとの人的交流であります。青少年交流については、本県はハバロフスク地方と、1994年以降、相互に訪問、受け入れを行ってきております。訪問した数も、受け入れた数も100人を超えております。

こうした取り組みは、将来の関係の基礎として重要であると考えており、これからも継

続していきたいと思っております。

今後、観光交流という面も注目されるのではないかと考えております。昨年8月にウラジオストクを訪れたときにはもうゴルフ協会といのが出来ておりまして、是非秋田県へゴルフをやりにおいで下さいと言いまして、ロシア語の日本のゴルフ場のパンフレットをお送りしております。

ただ、渡航手続きの簡素化など、今後より一層のロシアとの交流の様々な手続きを簡素化して交流の数を増やすということが、経済交流、観光交流、地域の日本人との交流などにつながるのではないかと思います。ありがとうございました。

■セルゲイ・ダリキン沿海州地方知事

みなさま、こんにちは。ここでみなさんとお会い出来て嬉しく思います。私達は長い間にわたってみなさんのことを知っているからです。そして一緒に仕事をしてきたからです。私達には一つの共通の海があります。様々な国際組織のなかでも同じように仕事をしてきています。

ここで指摘したいことがあります。大阪と鳥取との間の協力関係、島根と新潟、北海道、秋田との協力関係をもっております。私達の貿易取引額は7倍に増えております。そして沿海地方と新潟はそのなかでも大きな役割を果たしております。沿海地方のすべての国民を代表いたしましてさまざまな問題に対して、経済問題だけでなく環境問題、文化問題に関しましても解決に協力して下さっていることに関して感謝申し上げます。

特に環境問題であります。日本の会社が既に廃船となった原子力潜水艦の廃棄問題についてさまざまな支援を行って下さっていることに関して、環境問題という点からに関して感謝しております。現在、沿海地方というのはもちろん危機のなかにありますが、私達は一生懸命に仕事をしております。

今年私達地域のGDPは1.5%引き上がっております。上がっているのは私達がパートナーと共に一生懸命努力しているからであります。現在、日本の多くの会社が私達と共に全く新しいプロジェクトに参加してくださっています。それは以前無かったプロジェクトであります。それは石油です。石油をクジミノという新しい港から最初に輸出しました。

そして、次のプロジェクトとしては東シベリアと太平洋間を結ぶパイプラインプロジェクトであります。ロシアの一番大きな石油コンビナートでありますナホトカ湾に年間2千万トンのターミナルを設立するということになっております。沿海地方にもガスパイプラインが敷設されることとなります。新しいガスが供給されることによりまして新しいガス製造工場が建設される予定であります。そして2012年にはウラジオストクでAPECの会議が行われることになっております。

私達としては北海道を初めとして日本の企業が新しいハイテクの技術をもってこの分野で仕事をしてくれることを望んでおります。2012年のAPECに関しまして私達は皆さん方を是非ウラジオストクに来て頂きたいと思えます。

私達の伝統的な産業というのは水産業であります。水産業の生産高の30%は日本の企業と取引を行っております。水産加工においても日本の企業が大きな活躍をしております。日本の企業は長い間にわたり沿海地方で水産加工の分野で仕事をして下さっております。現在、8千億ドルの投資が連邦政府から拠出されることになっております。これは大変喜ばしいことでもあります。このような資産の拠出というのは私達にとって私達の地域が発展するのに非常に重要なことでもあります。ですから、新しいプロジェクトに関して是非、みなさまにお越しいただきたいと思えます。経済特区もそうですがこれは港に関する経済特区であります。

私は簡単にお話しましたが長期間にわたって本当に困難な仕事をみなさまがしてくださったことでもあります。危機のなかでみなさま方の協力が大変重要であります。ありがとうございました。

■達増拓也岩手県知事

ようこそ、日本へお越しくございました。私は岩手県知事の達増拓也と申します。

岩手県は、太平洋に面する本州の北東部に位置し、人口約 135 万人、豊かな自然環境に恵まれた広大な県土を有し、四季折々の景観が大変美しい県であります。

また岩手県は、今年9月にユネスコ無形文化遺産への登録が見込まれている早池峰神楽や2011年の世界遺産登録を目指している平泉文化遺産など、多様な歴史・文化が育まれています。

ロシアでは、日本の伝統、文化、自然、お寿司をはじめとした食に対する関心が高いと伺っています。

岩手には、太平洋からの豊富な海の幸や、前沢牛をはじめとした、安全・安心で美味しい農林水産物を食材とした郷土料理、陸中海岸、八幡平国立公園などの雄大な自然景観や温泉、スキー場など、多彩で魅力的な観光資源に恵まれています。

さらに、本県は、岩手県立大学をはじめ、高等教育機関を有し、優れた資源を生かした学びの場としても、素晴らしいところと自負しています。

今後、観光をはじめ、様々な目的からの訪日、そして来県の機会が増加することを大いに期待しているところです。

その際は、岩手ならではの「おもてなしの心」で歓迎いたしたいと思っております。

また、本県としてもロシアとの交流として岩手県立大学とロシアの大学間での、大学教員レベルの交流の可能性を検討しているところであります。

グローバル化が著しく進展する中で、岩手県も世界への貢献を果たしていくためには、岩手から積極的に情報を発信し、古代にまで遡る自然との共生や、コミュニティの絆の価値を世界の皆さんと共有していくことが必要と考えています。

こうした考えに基づき、本県では農林水産物等の県産品の販路拡大、観光客誘致、中小企業の海外ビジネス展開の推進など、「海外に出る国際化」や、情報やコミュニケーション手段の多言語化による、外国人の方々の不便の解消はもとより、留学生・研修生の受入れや県内企業への就職活動支援に取組むほか、地域社会の大切な一員として受入れる地域環境づくりにも力を入れるなど、「岩手の魅力づくり」を推進しています。

このように、国内外から認められる岩手ブランド・岩手スタンダードを県民が協力して作りだし、それを積極的に海外に発信し交流する。そうした活動の成果が、外国人と手を携え共に生きていくという県民意識の高揚につながり、新たにブランド等を生み出していく。そういった国際化の循環を加速させ、日々進化していくことが大切と考えます。

本日の意見交換をよい契機として、今後、日本とロシア間での民間を含めた経済、文化、人的交流といった「草の根交流」が一層促進されることを期待し、その中で、岩手県としても、その一助となるような取組みを検討していきたいと考えます。ありがとうございました。

■ ラスタン・ミニハーノフ タタールスタン共和国首相

みなさん、こんにちは。私はロシアの構成要素の一つでありますタタールスタン共和国の首相を務めております。タタールスタン共和国の総面積は6万8千平方キロメートル、人口は380万人、115の民族が住んでおります。その多くがタタール人とロシア人です。

タタールスタン共和国で取れる資源の一番は原油であります。原油埋蔵量は10億トンで総額40億となっており、毎年産3千2百万トンあります。また、たくさんの原油由来の鉱物である石灰岩、ドロマイトなどが取れます。石油化学工業も共和国の重要な産業であり、産業に占める割合は27%、ポリエチレンも生産しております。それは全国の36%生産しております。また全国44%のゴムを生産しております。またタタールスタン共和国にはヨーロッパ最大の石油化学コンプレックスがあります。現在新しい石油化学加工工場が建設されております。

そしてトラック製造の大きな工場であるカマスがあります。マイクロバスなども製造しております。またアラブカという特別経済特区があり、いすゞモーターがトラックを作るようになっております。

そしてもう一つ、私達タタールスタン共和国が誇っているのは航空産業であります。航空産業はヘリコプターや機械部品の組み立て工場もあります。それからコンプレッ

サー、真空装置、冷蔵庫などやまた石油機器産業も発展しております。

他には医療機器や造船などもあります。そしてタタールスタンにはもう一つ有名な産業分野があります。それは農業です。またロシアのICLPという会社がありますが、これはIT企業であり富士通の傘下に入っております。

また、横河機械というIT企業がありますが、その企業が私達タタールスタンの企業の設立にあたりまして共同交渉を行っております。三菱、そして三菱重工という企業がタタールスタンでの工場開設のプロジェクトについて交渉を行っております。

そして「さくら」と呼ばれる日本センターが開設されています。ここでは日本語だけでなく、日本に関する様々な勉強が行われています。みなさん、タタールスタン共和国において下さい。そしてご自分の目でタタールスタン共和国を見て下さい。日本からの訪問団が来ることをお待ちしております。

■ 泉田裕彦新潟県知事

お手元にある地図をご覧になりながらお話を聞いていただけると大変幸いです。新潟県には日本に三カ所しかない総領事館が設置されております。クラコフ総領事には大変お世話になっております。この場を借りて御礼申し上げます。

新潟県と極東ロシアの関係は非常に深いものがあります。まずエネルギー面からでございますが、新潟県は日本では珍しい石油がとれる、そして天然ガスが取れるということで、新潟から東京メトロポリタンエリア、東北、さらには中部地方にパイプラインが伸びております。そして、新潟の港には世界最高効率を誇るLNGの天然ガス発電所も設置をされております。このような立地条件から新潟県はロシアとのビジネスにお役に立てるのではないかと期待しているところであります。

加えまして、今は既に廃止をされておりますが新潟には石油精製所がかつて存在しておりました。原油を輸入して精製をして国内に配布出来れば新潟にとってメリットが大きいのですが、残念ながら新潟では効率が悪いということで廃止をされております。ロシアに精油所があれば石油製品を輸入するときの受入口になることも可能ではないかと考えております。そういう意味でウラジオストク近郊での精製所の建設計画は是非早く完結していただくとこれはロシアと日本のエネルギー安全保障という点でもプラスになるのではないかと期待をいたしております。

また、通信面でございますが、新潟の直江津とロシアのナホトカの間に通信ケーブルが敷設されているということで、情報の入口になっております。航空路も日本で唯一のハバロフスク線が新潟に到着しております。加えまして首都圏と極東ロシアの玄関口ということになって様々な情報の交流をおこなっております。新潟には環日本海経済研究所（ERINA）が設置をされております。この環日本海経済研究所を通じましてロシアとの調査研究が行われております。医療分野でもハバロフスク癌センターとERINA、新潟大学との間で協力協定に調印し専門家の間で交流が行われているところであります。2010年のAPEC関連閣僚会合がウラジオストクで開催されるということから、現在県内の企業とプロジェクトを組んでいるところであります。「極東ザバイカル地域発展プログラム」の実現、これに協力すべくプロジェクトのインフォメーションを現在おこなっているところであります。

加えまして、ウラジオストク近郊のザルビノと新潟の間にフェリー航路を開設する試みを現在進めているところであります。物流拠点という観点で見て頂くと、高速道路が東京メトロポリタンエリアに繋がっておりますので、ロシアからのアクセスが便利にお使いいただけたらと思います。

新潟県は健康に良いといわれる日本食の中心であるお米、このお米のおいしさが日本一と言われる魚沼産コシヒカリが取れるところでもあります。日本食の文化の交流を通じてロシアとの協力関係を進めて行きたいと思っております。また、日本酒についても新潟から大変美味しいお酒がございます。是非シベリア鉄道を通じてロシア国内全体へ運ばせて頂ければ嬉しいなと思っております。

それから、濃い色の付いた魚である錦鯉、これは新潟県発祥の魚ですが、プーチン首相の故郷であるサンクトペテルブルグへ新潟との友好のシンボルとして今年錦鯉を送るということになっております。在新潟ロシア総領事館、そしてサンクトペテルブ

ルグ日本センター所長のご協力により実現したプロジェクトでございます。

加えまして、新潟県は温泉の数が日本国内に3番目に多い、冬の間のリゾートとしてお越しいただける場所を十分提供できると考えております。

また、水産加工をする技術が備わっております。真空パックを用いて水産物を売るプロジェクトをロシアの大学と協力をして進めているところでございます。私もウラジオストクに行った際に、新潟から輸出をした真空パックをした商品を食べてみました。日本向けとは味が少し違うということで、ロシアの味付けがなされた水産加工物の販売が日本でも出来ればロシア文化との交流も進むのではないかと、新潟からはお米を中心とする日本食、ロシアからは水産加工物ということで相互に交流が進むことを期待しております。このような機会を設けて頂き大変感謝申し上げます。私からのプレゼンテーションを終了させていただきます。ありがとうございました。

■オレグ・コジェミャコ アムール州知事

尊敬するみなさま、今日このように素晴らしい知事意見交換会を組織して下さったことを大変感謝いたします。

簡単にアムール州についてお話したいと思っております。アムール州というのは、面積が30万平方キロメートルありまして、その気候条件は312日間天候が良いということでもあります。

アムール州というのは極東とシベリアを結ぶ連結地点であります。現在、アムール州といのは極東とシベリアの中で一番輸送インフラが発展している国でありまして、シベリア鉄道、自動車道路網もすべてアムール州を通っております。

そして、アムール州のもう一つの大きな魅力は水力資源であります。日本とロシアとの間にニゲルスク水力発電所計画といのがあります。この日本との水力発電所の建設に関してまいて日本の三井と、電源開発とともに長期間にわたりこのプロジェクトの交渉をおこなってきました。この水力発電所が出来ることによって、私達アムール州というのは水力を必要とするアルミニウム製造工場建設にも関わってきます。そして水力発電所を作ることによって温暖化ガスをかなり減らすことができます。

そのほかにアムール州は天然鉱石がありまして、鉄鉱石や他にもリンなど鉱石もありまして、私達はこのような天然鉱物の開発に関しまして輸送に関しましても、日本の企業との協力というのを考えております。

またアムール州は生産高の40%が農産物であります。私達のアムール州では「あさひ作品」という日本の会社が日本への大豆の取引に関して興味を示しておられます。この会社はロシアから大豆を輸入したいと考えており、この交渉も行われております。また、アムール州ではとてもたくさんの森林資源があります。この森林資源は重要な輸出品であります。

そのほかにも食料品としては蜂蜜とか木の実とか、木の実は以前には日本にも輸出されておりました。このような食料品は環境に優しい綺麗な食料品だと言われております。

私達アムール州の南というのはとても豊かな平野であり、そこではあまり化学肥料が使われておりません。ですから私達の平野部分では様々な農産物を作るのに適しています。またアムール州では観光業にも力を入れています。日本の鶴が飛来するところであり、そのため日本の観光客のみなさまにも来て頂きたいと思っておりますし、アムール州にはマンモスの堆積物があります。このような面で私達は観光業を発展させることが出来ると思っております。日本人のみなさまが見て楽しむ事が出来ると思っております。心から日本のみなさまとの協力を発展させていきたいと思っております。みなさま方がお越し下さいますことをこころからお待ちしております。ありがとうございました。

■石原慎太郎東京都知事

今日はこうやって、多くのロシアの指導者の方々とお目にかかることを大変嬉しく思っております。聞くところによりますとロシアの日本研究というのはエカテリーナ女帝のころから始まっているということで、その点では歴史が長く、例えばわたしは

小説家ですが、私のいくつかの作品はロシア語に翻訳されておりますが、むしろアメリカで翻訳されたものより質が高く、ロシア語版からさらにヨーロッパで翻訳されているケースがありまして、大変そういう点で感謝いたしております。

ご承知のとおり東京は今2016年にオリンピック・パラリンピックの招致運動を展開しておりますが、是非この機会に各地のリーダーのみなさまに日本に対し協力をこころからお願いする次第であります。

世界が時間的空間的に狭くなりまして、非常にいろんな形の交流が早く行われていますけれども、せっかくの会議ですから提唱いたしますけれども、友好県友好県といいますが、友好県同士の交流だけではなく国を通しますと時間が掛かりすぎることがありますので、それぞれ特徴をもっている各県と活用できる状況にあるみなさま方が相手を選んで積極的に交渉することがこれから大変必要だと思います。

東京について申し上げますと、東京は非常に集中集積が進みすぎまして、困っていることもあります。たとえば予算の規模も国家予算の10分の1、国単位でいいますとオーストラリアをしのぐ世界で10番目くらいの予算規模となっております。そういった財政のなかで私達出来るだけのことをやっておりますが、政府に頼まれてこのところ一年間で3千億ずつ税収から東京が政府に拠出しているというおかしな現象になってはいますが、これも東京が日本全体の心臓部頭脳部となった一つの責任の履行だと思います。

みなさんに申し上げたいことは東京には非常に大きな可能性があるということを知って頂きたい。たとえば技術ということです。日本はいくつかの新しい先端技術を開発しておりますが、そのベースになるのは東京に集中している技術であります。これは数が多すぎて大きな企業の目にとまらないために東京にたくさんあります小さな企業や研究所にいたってはわずかな2、3人でやっているような研究所がものすごい発明、発見をしまして、うまくやるとノーベル賞に繋がるような研究がたくさんあります。それは残念ながら多すぎて目にとまらない。大企業がそれをピックアップして製品化するプロセスになかなか乗らない。例えば国の実情によってこの技術なら世界に頒布するよりも自分の国だけで活用したら効果であるものは非常にたくさんあります。

例えば環境問題に関係のある水ですが、得やすいところ得にくいところ、水力発電の可能などところ不可能なところがありますが、東京は毎年10ずつ優れた先端技術の表彰をしておりますが、去年その一つになりましたその発明はコロンブスの卵のようなものですが、どんな小さな川でもいいのですが流れの速い川にこのテーブルの一つくらいの発電機を置きまして水の上に岸から繋いで浮かせるのです。そうすると一番速度の速い表面の対流というのが水流を使って発電をするということで優に一つの家族が一年間使う電気を発電するという技術です。これはベトナムとかカンボジアとか発電所がない、しかし水だけは豊富にあるということころで活用されれば家庭で電化生活ができる、テレビが見られる冷蔵庫が使えるという生活になるわけです。

水に関していいますと東京は世界で一番進んだ技術を持っております。これ東京はただの東京の水道の水です。世界で一番安全です。第5次処理まで行っております。ですからエビアンを買う必要がありません。こっちのほうがずっと大きくて安いです。ですから申し訳ないけど、他の県でも東京の水を売っていますが、安いので売れます。このようにたくさん活用できる種目があります。いつでもご案内いたしますので東京にいらして選んでピックアップされてこれは自由ですから自分の地域の条件に合うものをあつたらどんどんそういったものを摂取して新しい仕事をしていただきたい。例えば私はマレーシアのマハティール前首相と非常に親しいのですが彼にも言いましたがこの東京の技術に着目していくつか東京の小さな企業で発明した技術を使って非常に良い仕事をするようになりました。

そのほか申し上げたい事があるのですが、来週にソウルで私が呼びかけられて参加しましたC40、世界の大都市40の環境問題の会議があります。ロンドンのリビングストン市長に言われて私も二度目から入りましたがニューヨークの会議に出ましたが全く役に立たない。ただ大変だというばかりでこのようなことは技術的に処理しなければダメなのであって諸君のような知事や市長だけでなくて専門家を集めて東京で会議をしようということで昨年10月にC40の専門家会議を開きました。その結果

13項目の環境対策をやろうということになりまして、その成果というものが来週始まるソウルでの総会に報告しあうのですが、いずれにしろこの昨年のC40の東京の会議で各地を代表する専門家を集めてその専門家の意見は全部悲観的でありました。これはあと5、6年の間に相当なことをしないと我々はポイントオブノーリターンを過ぎる、つまり市民に対する責任を果たすためには具体的に何かをしなければならぬという結論になったのですが、政府全体としての動きは昨年の日本でのサミットを見ましても一昨年のバリ島の環境会議を見ましても全然進歩がなくて私は非常に不安を感じていますが、いずれにしろそういった具体的な努力を遂げていくためにも東京の技術というのは必ず皆さんのお役に立つと思いますので、是非専門家を派遣されて東京に潜在しているあまり大きく活用されていないこういう技術なら我々の地域に大いに活用出来るということがあれば喜んでご協力をいたしますので是非専門家を送って東京に潜在している非常に先端的な技術を研究し評価して頂きたいと思います。

■アレクセイ・クジミツキー カムチャツカ州知事

この意見交換会を組織して下さったみなさまに心から感謝するものであります。そして尊敬するみなさま、どこにカムチャツカがあるか、みなさま方はご存じだと思います。

カムチャツカ地方というのは最近、カムチャツカ州とコリヤーク自治区という二つの地域が一つになりました。そしてカムチャツカ地方にとって日本は重要なパートナーであります。カムチャツカ地方の対外貿易活動というのは成功裏に増えております。基本的な輸出品目は水産物です。さけ、ます類を初めとする水産物を輸出しております。日本はカムチャツカ地方の貿易高においては第2位を占めております。ちなみに第1位は韓国です。

カムチャツカ地方というのは観光にも優れた地域です。素晴らしい自然があります。日本の皆さんにはカムチャツカ地方の温泉や様々な鉱物泉などを楽しむことができます。多くの温泉好きの日本の方々がかむチャツカ地方に来て下さることを望んでおります。ここ数年カムチャツカ地方を訪れる日本人観光客は減少しています。私達としてはカムチャツカ地方と日本の新潟とかと直行便などを観光シーズンにはオープンさせたいと考えております。またクルーズ船を定期的に送るとか考えてみたいと思っております。

カムチャツカ地方のポテンシャルというのは大きいと思っております。そのポテンシャルを使えるのは隣国である日本のみなさまです。長期的に見ても短期的に見ても、投資プロジェクトも考えております。例えばカムチャツカ地方の銀行と日本の銀行との協力協定が結ばれました。私達は今後ともこの分野での発展を考えております。また、インキュベータの様々なカムチャツカの企業に対して日本の銀行が投資してくれることを考えております。

カムチャツカ地方と日本にとって重要な分野は文化交流であります。カムチャツカ地方には日本センターがあり、子供達が折り紙を習ったり日本語を習ったりしております。私達としてはカムチャツカにおける「日本の日」、日本における「カムチャツカの日」というものを作りたいと思っております。美術展や映画祭などもやっていきたいと考えております。カムチャツカ地方と日本との間には地震や津波などの問題に関する日本とカムチャツカ地方との学者同士による協力関係が結ばれております。この分野での協力関係というのは将来性があり、必要なものであります。

カムチャツカ地方の戦略的優先方針は水産資源であり、観光、インフラの発展です。これらが優先となっています。私達はこの分野において水産加工品の製造工場の建設、カムチャツカ地方はバイカル湖について第二位の綺麗なカムチャツカ湖という淡水資源をもっています。またホテルやスキー施設など、このような分野を優先しております。必要な情報はカムチャツカ行政府に問い合わせてください。私達はみなさまが必要な情報は提供する用意があります。

私達は将来カムチャツカ地方としてはインフラの発展に関しまして大きな地方予算を割く予定です。この分野においても投資を願っています。投資のための良い条件を作り出そうと思っております。私達のカムチャツカ地方というのは投資の魅力として

は随分高くなっていると思います。私達は投資の魅力性を高めるためにあらゆる努力をしております。また、地理的に、気候的にもこの地方は冬のスポーツを発展させる条件が揃っていると思います。冬のスポーツの施設が整っているのでカムチャツカ地方でシーズントレーニングが行われています。また、さまざまなスポーツによる傷害のための治療施設が整っています。カムチャツカ地方ではビアトロン大会が行われました。カムチャツカ地方をビアトロンの選手達を訪れました。これは世界選手権でした。また、カムチャツカ地方は2016年におこなわれるビアトロン世界選手権の候補地として立候補しております。もちろん、ビアトロンだけでなくスキー施設やスケート施設といった冬のスポーツのインフラを増やしていきたいと思っています。これは観光施設のインフラ整備に繋がるわけです。イタリアではすでにカムチャツカ地方の観光に結びついた投資プロジェクトが行われております。もちろん、私達はロシアの連邦法に従いまして、政府の保証を貰っております。日本の企業の方々がカムチャツカ地方で商業施設の設立を考えておられるのであれば、また投資活動を考えておられるのであれば私達は覚え書きを取り交わす用意があります。今日はありがとうございました。

■橋本昌茨城県知事

本日は、日露知事意見交換会に参加し、皆様方にお会いすることができて、大変光栄に存じております。

茨城県というのはおそらくみなさまが一番知らない県ではないかと思えます。パンフレットを用意しましたのでご覧になりながらお聞きください。

茨城県は、東京の北東に位置し、県都の水戸までは東京から約100km、電車で約1時間の距離にあります。また、第2の都市、つくば市までは約50km、電車で約45分です。人口は300万人で、農業も工業も盛んな県です。

まず、農業については、米はもちろん、野菜、果物、畜産など多岐にわたる生産が行われており、東京の台所を賄っております。

次に、工業については、日立製作所の発祥の地であり、電機・機械・鉄鋼・石油化学等の多様な業種の企業が数多く立地しております。今日、私は特に科学技術についてお話をしたいと思えます。

県内にあります東海地区には、原子力研究機関が集中しておりますが、昨年12月には約2千億円を掛けて建設しました「大強度陽子加速器」これはJ-PARCと呼ばれておりますが、稼働いたしました。

この機械は、世界最高の性能を誇る加速器施設で、例えば、陽子を加速し、原子をぶつけることにより中性子を発生させ、その活用により、リチウムイオン電池あるいは難病治療薬の開発に結びつけるなど、実用面での成果が期待されております。この加速器でみますとX線では見られない水分が見ることができます。これは新たな発見につながるものと期待しております。

次に県内のつくば地区には、約300の研究機関等が立地し、国の試験・研究機関の1/3がつくばにあります。博士号保持者約6千人を含む約2万2千人の科学者が、ロボット技術やナノテクノロジー、バイオテクノロジーなどの研究に携わっております。つくばにはノーベル賞を受賞した研究者も何人もおります。

また、つくばでは、国際宇宙ステーションにある日本の実験棟「きぼう」の開発や試験、宇宙飛行士の養成も行われております。

つくば市は、サイエンスシティと呼ばれており、この7月には世界中から高校生が集まって国際生物学オリンピックも開催されます。

日本は科学技術創造立国を目指しているところでありますが、東海やつくばなどの最先端の科学技術や産業技術の集積を活かすことで、本県をその重要な拠点としていきたいと考えています。

次に、ロシアとの関係であります。本県の茨城港には、2000年から、ナホトカとの定期在来航路が開設され、アルミニウムが輸入されております。

また、LNG（液化天然ガス）については、先月、サハリン2から日本への輸入が始まったところですが、茨城港には東京ガスのLNG基地の建設が計画されており、近い将来、ロシアからLNGの輸入が予定されています。

ロシアから本県への旅行者は、まだ少ないですが、来年3月には茨城空港が開港しますので、将来もっと往来が盛んになることを期待しております。

本県には、筑波山や霞ヶ浦、温泉などの自然、偕楽園や弘道館などの名所、旧跡も多く、ゴルフ場などたくさんあり、観光面でも魅力的な県であります。また、日本の最先端をいく東海やつくばを中心に、科学技術に関する交流を盛んにすることは、両国にとって有益なものと思われまます。両国の交流が盛んになり、ロシアから多くの方々が、観光やビジネスで茨城においでいただくことをお待ちしております。

■ ヴィクトル・クレス トムスク州知事

尊敬するみなさま、私にとりましてここで日本とロシアの同僚の知事のみなさまとお目にかかれるのは光栄であります。このような会合が定期的に行われるように、そして新しい相互互惠のプロジェクトが生まれるために寄与すること願っております。

トムスク州というのは日本との協力を2005年の9月から始めました。それは日本で初めてのトムスク州のプレゼンテーションを行ったためです。そのなかで一番大きな役割を果たしてくれたのがロシア21世紀委員会でした。

ですから、私もこの理事会のメンバーですが、ルシコフ市長に対しまして私達の地域を忘れてないこと、新しいプロジェクトに私達の地方を入れて下さったことに対しまして感謝しております。

私達のトムスク州というのは日本でも知られるようになっております。トムスク州は日本に唯一関連の支部を持っている州です。トムスク日本協会といもので、一番重要な役割を果たしているのは金田さんという所長であります。

トムスクというのはユーロシヤ産業投資ブリッジというものに大変興味を持っております。このブリッジ構想というものに日本もかなりの興味を持っていると思います。これはシベリア鉄道に沿った地域にあります有用鉱物の開発というものを考えております。私達のトムスク州というのはかなり豊富な石油ガス資源をもっております。ガスフロムロスネスチという企業が私達のトムスク州で活動しております。

石油分野におきましてはロシアだけでなく、スイス、カザフスタンといったような外国の石油関連企業も活動しております。もちろん私達としては日本の関連企業も参加して頂きたいと考えております。

また、トムスク州というのはたくさんの森林資源を持っております。ドイツ、フィンランド、中国、イタリア、カナダ、アメリカといったところが新しい森林資源の開発、加工に関して人材を育成しております。それから旭硝子がガラス分野で進出しております。また、昭和電工も私達トムスク州にかなり関心を持ってくれています。

トムスクというのは技術革新について長い歴史をもっております。トムスクの技術革新の発展というのは130年前に始まりました。トムスクに130年前初めてウラル以降で設立されたトムスク大学があります。トムスクは五人に一人が大学生です。トムスク州には科学アカデミーの五つの研究所、またロシア医学アカデミーの研究所も活動しております。

日本との関係であります、近畿大学と広島大学がトムスクの工科大学と関係を結んでいます。また、日本の研究所とトムスク工科大学の核物理学研究所というのが協力を行っております。素材工学の分野においても日本とトムスク州の化学研究所と協力活動が結ばれております。そして新しい考えを実際に商業化するためには多くのイノベーション的考え方が必要です。ところでトムスク州にはさまざまな400ものイノベーション企業が活動しております。例えばハイテク分野ですが、石油化学工場の制御関係を行うソフトを作っている会社があります。バイオテクノロジーの関連企業、IT企業のようなイノベーション企業が発展しております。特に私達のトムスク州には2006年から特別技術特区というものが活動しております。つまり私達トムスク州が持っている技術ポテンシャルを特化するための特区であります。そこには30の様々な企業が入っております。IT企業、医学企業、ナノテクノロジー、省エネ企業などです。国際的にもこれらの企業は有名になっておりまして、台湾、アメリカが共同のプロジェクトを行っております。そしてこの特区で日本の企業の名前が登場することを心から願っております。

なぜ、トムスク州がいいのかというと、まず人材が豊富にあるということです。トムスクというのはシベリア全体の人材育成庫であります。トムスク州だけでなく他のロシアの地方、C I Sの人材を私達が作っているといえると思います。私達のトムスク州の学生や若い専門家達はよろこんで日本で仕事をしたいと思います。

一つの例をあげますと、現在ガスプロムというサハリンで液化ガスをつくっている企業ですが、その液化ガスは日本に輸出されるわけですが、そのなかで重要な役割をしているのが、私達のトムスク大学であります。サハリンのガスプロジェクトの専門家を私達トムスクの大学が育成しているといえるでしょう。トムスク大学というのはロシアのпатентを最も数多くもっている大学です。

トムスクではロシアの中で一番大きな州であること、技術が商業化されているということです。私達がそれを学んだのがフランスからです。現在フランスとはパートナー技術センターというのが作られております。またイギリスともとても友好的な関係を保っておりまして、トムスクイギリスベンチャー基金というのがあります。ここで私は茨城県の橋本知事とお目にかかることが出来て嬉しく思っております。もちろん他の地域の方達もさまざまなプロジェクトに参加することができます。トムスクでは核エネルギー分野の協力というのが考えられます。トムスクには新しいパターンの原子力発電所の様々な設備をつくる工場、原子力の医療分野の研究所もあります。また、機器とイノベーションの国際フォーラムを今年の9月に開催する予定であります。是非ご参加ください。とても素晴らしい気候のトムスクです。是非、お越し下さい。

■ 上田清司 埼玉県知事

埼玉県知事の上田清司です。今日は本当に意見交換会を開催していただきありがとうございます。

私は衆議院議員時代の1993年12月にロシアの審議会選挙の選挙監視団の一員として当時の政府から派遣され監視団のメンバーに入っておりました。投票日には1日投票所に立っておりました。ルシコフ・モスクワ市長の自宅にも表敬訪問をさせて頂いております。その他大勢でしたのでご記憶にはないかと思いますが、私は訪問いたしております。その後、チェルノブイリの放射能汚染のNGOの救援活動にも参加させて頂いております。

さて、埼玉県ですが、首都圏のちょうど中央に位置しておりまして、人口七百十万人、GDPが21兆円、共に47都道府県のなかでは五番目に位置しております。埼玉には東北新幹線、上越新幹線、長野新幹線といったように埼玉県を通らないと東日本のほとんどには行けないという形になっております。関所の税金をとっているわけではありませんが、東日本の交通の要となっております。

また、産業ではオプト工学関係が全国一位のシェアをもっております。あるいは医薬品、化粧品なども一位でありますので化粧品を使って女性が綺麗になれば女性は当然のこと、男性も幸せになれるということになります。

また食品加工でも全国三位のシェアを持っております。自動車産業も盛んで特にホンダが国内最大の国際的マザー工場を800億円投資して今埼玉県で建設中です。日産ディーゼル、ボッシュ、カルストニクス管制など自動車関連の産業のシェアも全国で四番目くらいのシェアを誇っております。また日本の独自の文化であります、盆栽の本拠地であります。これまで埼玉県とロシア連邦共和国との直接の交流はございませんが、民間企業が独自にビジネス交流をしております。

これからは積極的に群馬県、新潟県をとおりながら埼玉県もロシア連邦共和国の各州との積極的な交流を図っていきたいと思っております。本日はありがとうございました。

■ オレグ・コヴァリョフ リャザン州知事

尊敬するみなさま、ここでみなさまにご挨拶できることをとても嬉しく思っております。また、この会議を開いて頂いたこと、この組織に関して大変感謝しております。

リャザン州というのはモスクワから約200キロメートル離れておりまして、4万平方kmの面積を持っております。国民は120万人であります。リャザン州というの

は科学技術産業が盛んであり、地理的な有利さから投資の面では高い地域となっています。私達には有用鉱物がたくさんあり、森林資源もあります。石英の採掘にはアメリカの企業が参加しております。

リャザン州というのはロシアの中央連邦管区に属しており、セメントなど建設資材に対する需要がとて高く、他には金属加工、無線工学機械製作工場などの産業が盛んです。

日本との協力で最も将来性が高いのは医療機器の製造、太陽エネルギー機器の製造などが優先的なものであります。特に太陽エネルギーに必要なセラミックなどがリャザン州で取れます。私達はすでに太陽エネルギー用の機器を作るための敷地も工場も出来ております。日本の複雑な電子機器部品を作る工場を誘致することができると思っております。

また、自動車産業の工場ですが、合同合弁企業というものを作ることができます。たとえば自動車部品加工工場などです。1980年代に岩手県と私達は協力関係がありました。私としてはこの協力が再開されることを嬉しく思っております。

私はすべての分野で日本との協力が再開し、発展することを願っています。私達の地域と日本との貿易取引高というのは3千5百万ドルであり、ガス機器、医療機器などであります。私達リャザン州が一番輸入しているのは日本の自動車や電気製品です。多くのリャザンの企業は日本の企業のパートナーとなっています。でも私達の貿易パートナーとしてはもっと広く発展させることができます。

それからロシア21世紀委員会の提唱により日本文化フェスティバルが定期的に行われております。リャザンではこの日本文化フェスティバルに大きな興味をもっておりまして、大きな成功を収めています。

リャザン州と日本は教育分野ではとても良いコンタクトが取られております。リャザン国立大学では日本語の教育プログラムが行われております。富山と名古屋の大学と科学研究関係が樹立されております。私達の教員は富山や名古屋の大学の研修に参加することが出来るようになっております。

リャザン州というのは民族製品なども多くあります。リャザン州にはオク国立公園がありミシエルスキー国立公園もあります。これらは世界遺産のリストに入っております。リャザン州出身者には有名人もおります。詩人のエセーニン、天山山脈を旅行したピョートル・セミョーノフ、ロシアの最初のノーベル賞受賞者である物理学者のイワン・パブロフなどであります。私としては日本の観光客にリャザン州をいろいろ観光できる観光プログラムを提供することができます。そのような観光プログラムを通じて日本の観光客のみなさまは私達リャザンの素晴らしい自然と民族性を感じることができると思います。私達としては地方間の関係を拡大するというのはお互いに文化的な伝統を強めることができ、友好関係を強化できると思います。そしてここにご出席のみなさまのご多幸とご繁栄をお祈り致します。ありがとうございました。

■石井・一富山県知事

みなさまお疲れのことと思いますので簡潔にお話したいと思います。お手元にパンフレットがあると思います。裏を見て頂くとわかりますが富山県は日本列島の真ん中に位置し、東京や大阪、名古屋といった大都市圏から近いのですが、特に昨年7月に東海北陸自動車道が名古屋から繋がりました、名古屋から自動車だと3時間弱で直結することになりました。

パンフレットを見て頂くとわかりますが、大変自然が美しいところでありまして、昔から医薬業、薬の富山といわれものづくりが盛んなところでございます。東京などの大都市圏を除きますと地方では最も工業県として発展している県です。ロシアのみなさまとの交流については今日、ダリキン知事さんが居られますけれども沿海地方と17年前に友好提携を結びまして毎年留学生の方を富山大学に受け入れたり、技術研修員の方に来て頂いたり、ロシア語の国際交流員の方に来て頂いたり、随分交流が深まっており、日本語のスピーチコンテストというの、毎年ウラジオストクでやらせて頂いております。

先ほどプーチン首相が政府間の交流とか経済の交流も大切であるけれども、非政府

間の交流たとえば文化の交流も大切であるという趣旨のことをおっしゃったと思いますが、富山県は地方の県としては文化の面でもロシアのみなさんと交流が結構深まっております、3年前には当時まだ大統領でいらしたプーチン大統領のお声掛けで第四回の日ロ文化フォーラムというのを富山県で開いていただいております。その際には当時の文化映画庁長官のミハイル・シュビトコイ長官にも来て頂いております。そのご縁で一昨年はロシアの代表的な演出家のユーリ・リュビーモフさんがタガンカ劇場のみなさんを率いていらして、富山県の利賀村で国際的な演出家である鈴木忠（すずきただし）と共同演出をしてギリシャ悲劇のエレクトラをやるということでこれを利賀村で研修したものをモスクワのタガンカ劇場でやるということでルシコフ市長もひょっとしてご覧になっているのではないかというような交流もございます。また一昨年にはモスクワ芸術座の俳優の皆さん20人くらいに利賀村にお越し頂き、リア王を訓練して演出し毎年これはモスクワで定番となっているようで、モスクワのみなさま方に楽しんで頂いているようです。

ここで本題に入ります。先ほども何人かのロシアの知事さんからお話がありましたが、わたしどもロシアと日本との間の海、日本海をなんとかこれまで以上に平和の交流の海にしたいと思っております、そのためにも富山県でいいますと伏木富山港、これが新潟港とならんで日本海側に二つしかない特定重要港湾ということでもありますので、これを活用して極東ロシアとの経済交流を深めるのはもちろんですけれども、是非シベリア鉄道を使ってモスクワやサントペテルブルクの周辺にもいろんな貿易交流、たとえばサントペテルブルクの周辺の自動車工場でトヨタの工場が出来たら、その部品輸送はシベリア鉄道使う、その後東海北陸から富山から東海北陸自動車道経由で伏木富山港を使ってウラジオストクに渡ってシベリア鉄道を使ってモスクワやサントペテルブルクまでもっていくというようなこういったことに精一杯協力して行きたいと思っております。

そのために国の国土交通省と相談をしまして、今年実験をやってみました。名古屋周辺で出来た自動車の完成品はビールなども含めまして東海北陸自動車道から伏木富山港を使ってウラジオストク港から内陸のノボシビルスクまで運ぶといプロジェクトをやってみました。そうしたら、明らかに日本で出来た自動車をスエズ運河からヨーロッパに運んでモスクワ近郊まで運ぶと40日かかるのですが、シベリア鉄道を使って埠頭から入りますとだいたい23日とかそのくらいで非常に日数が短縮できて効果が大きいということが分かりました。

実際にやってみますと自動車の損傷とかビールの品質が落ちるとということもありませんでしたので非常に良い結果だと思えますが、ただ1点だけ今日は州知事さん達との意見交換会ですので、ずばり所管の方がいらっしゃるか分かりませんが、やはりウラジオストク港などでの通関手続きで10日間ほど時間がかかったということで、これは日本ではだいたい通関に1日か長くて2日、中国でもせいぜい1日か2日。そのことと比較しますとちょっとなるとかならないかなと、このあたりをうまく短縮していただくと物流が日本からスエズ運河を通過してヨーロッパへ行く、これよりもはるかに効率的に物が運べますので、日本とロシアの国益にかなうのではないかと考えております。是非こうした点はもちろん我々にも協力すべき点があればしますので、ご配慮いただけないかと考えております。あと一点、富山県は実は北洋材を日本でも一番輸入している県であり、中古自動車も一番ロシアに輸出している県であります。中古自動車でいうとだいたい最近では日本からロシアへ輸出する中古自動車の全体の三分の一は富山の伏木港から輸出されています。

ところが最近ロシアの関税政策が変わりましてかなり高額の関税がかかるようになりました。これは北洋材を富山県は相当たくさん輸入してきたのですが、これもいろいろなご判断があるのだと思えますが、80%の関税がかかるということになりまして、一富山県の業者が困るということだけではなくて、これから世界同時不況の中でのなるべく保護主義にならず相互自由貿易原則にして共存共栄で発展していくという意味で少し考えていただいた方がよいのではないかと考えて心にとどめて頂ければ幸いです。

最後に観光についてですが、おかげさまで富山県はこの5年間で富山県に観光に来

られるお客様は5.5倍に増えました。ロシアからの方も増えてきております。自然も豊で美しくございますし、文化も長い歴史があります。良い温泉もあります。新潟県の魚沼産に勝とも劣らないお米もお酒も美味しいところでもあります。是非観光についても力を入れてロシアの皆さん、ビジネスではたくさん来て頂いて、こちらも3倍、4倍と増えて居るのですが、観光に来て頂けるようにいろんな整備をして参りたいと思いますので、富山県からもロシアへ観光に行きたいと思っております。是非共存共栄でいきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございました。

■ユーリー・ルシコフ ロシア21世紀委員会議長

麻生会長、尊敬するご出席の知事のみなさま、私達は詳しいみなさまの県の情報についてお聞きしました。そして地方の間には関係が出来ているということを知りました。現在、国家間のレベルだけでなく、地方レベルでも関係が出来ているということはとても良いことだと思ひます。

そしてこの関係というものをもっと拡大させこういった形での接触を今後とも続けていく、全国知事会とロシア21世紀委員会と言う組織がこのような関係を続けるために努力するのであるならば、もしかしたらこれは私達の一番重要な接触の場所になると思ひます。もちろんご存じのようにロシアにも皆さんのところにもたくさんの方、たくさんの方道府県があります。大きな文化関係、経済関係は地方間で行われる可能性があります。私としては、私達がロシア21世紀委員会の枠内で様々な情報を持っています。ロシア21世紀委員会から提案をしたいと思ひます。私達のすでに今回の日本ロシア知事意見交換会ではありますが、これまで実は1997年、12年前に日口知事会議が行われた年ではありますが、そのときにはなんらかの原則的理由だったかもしれませんが、日口知事会議の活動が定期的な会合がわれなくなりました。

私は今、まさにこういった知事会議というものをを行うこと、再開することの時期だと思ひています。日口知事会議というのはお互いに交流する機会を与えてくれるものであり、この機会を通じてロシアの様々な連邦構成主体の地方と日本の都道府県知事との間に様々な接触をすることが可能だと思ひます。

私はここで提案があります。日本側の同意を得られるのであれば、秋にモスクワで日口知事会議を再開したいと思ひます。ありがとうございました。

■麻生渡全国知事会会長

ありがとうございました。ルシコフ市長から貴重な提案がありました。中断しておりました日口知事会議を再開しようということでございます。この点について、日本側の知事さんに意見がござひますか。

—異議なし—

それではさっそく提案でござひますけれども、再開ということで私達も同意いたします。時期についてルシコフ市長さんが秋と言われましたけれども、今年の秋ということですか？来年の秋ですか？

■ユーリー・ルシコフ ロシア21世紀委員会議長

来年の秋とういことです。もしかしたらそれより早く行うことが出来ることかもしれませんが、時間を失いたくないので、先に延ばすのではなく、もしかしたらもっと早く春にするとか、日口知事会議の時期を考えたいと思ひます。私達としてはこのような日口知事会議を行うための組織を作ることが出来ます。それぞれのここにいます地方の代表は日口知事会議を自分達の地方でおこなうことに賛成すると思ひます。

■麻生渡全国知事会会長

開催時期については具体的に調整をするということで、再開するという事にいたします。

■石原慎太郎東京都知事

私が、知事に就任してから呼びかけて作った、アジア大都市会議というものがあります。まさしくロシアは広大な国家ですけれども、東はアジアに位置しております。モスクワというわけにはいかないと思いますので、出来たらアジアにかかっている地域の大都市の首長さん、知事でも市長でも結構ですので、この会議に参加をお願いしたい。

近々行う総会に諮りますが、異存はないはずです。

今、参加しているのは東京、ソウル、北京、台北、サイゴン、ハノイ、ジャカルタ、デリーというところです。ここにロシアの代表がアジアの一員として参加すれば歓迎されると思います。どの地域、その市がロシアの東を代表して参加されるかルシコフ市長にお任せしますので皆さんと協議をしてご参加いただければと思います。

■ユーリー・ルシコフロシア 21 世紀委員会議長

私としては喜んでこの大都市会議にロシアのアジアに位置する大都市の首長をお送りしたいと思います。もちろんこの点について協議をしなければなりませんので、地方の知事と協議をしたいと思います。石原知事とアジアに位置するロシアでもっとも美しい地方を選びたいと思います。この大都市会議にどの地方を送るか近いうちにかならずお答えいたします。

私は今、ここで都市の名前を挙げることはできないのです。私はロシアの地理をよく知っているのですが、わたしがどこかの都市の名前を言うとすぐ他の知事が私を怒るでしょうから、ここでは地方の知事と協議をして調整して同意を得られた後に、このアジア大都市会議に誰が参加するのかお知らせしたいと思います。

■麻生渡全国知事会会長

今日の会議を受けまして共同声明を発表することにいたしましたと思います。この共同声明案を準備しておりますので、皆様にお諮りしたいと思います。

■ユーリー・ルシコフロシア 21 世紀委員会議長

石原知事、今私達は協議しました。私達はトムスク州の首都であるトムスク市を推薦いたします。

トムスク市はシベリアで最も古い都市であります。科学と産業と大学の都市であります。他の知事の反対が無ければ責任をとりまして勇敢にもトムスク市の名前を挙げたいと思います。トムスク市の名前を挙げたことにより他の州の知事からトムスク市という提案について不満がでて協議する必要があるかもしれませんが、ここではトムスク市ということにしたいと思います。

■石原慎太郎東京都知事

ルシコフ市長の判断にお任せします。わたしとしてはアジアとの関係が深い市をお願いしたい。

■ユーリー・ルシコフロシア 21 世紀委員会議長

トムスク市というのは地理的にはロシアのアジア部分のちょうど中央にあたります。

■麻生渡全国知事会会長

共同声明の案文についていかがでしょうか。ロシア語で読み上げて頂きましょう。

■麻生渡全国知事会会長

第2パラグラフに「プーチン首相を来賓にお迎えし祝辞をいただき、さらに麻生内閣総理大臣からメッセージをいただく」ということで追加をお願いします。他にございませんか。

■橋本昌茨城県知事

プーチン首相の挨拶でわざわざ科学技術の交流について話をされていまして、今回の会議のなかで科学技術のことが特に出ていましたのでどこかに入れて頂けるかどうかご検討ください。

■麻生渡全国知事会会長

プーチン首相は科学だけのことを言われたのではなくて広範囲な交流のことを述べておられたので、科学技術だけを取り上げるというのはどうかと。これはこれでいいのではないのでしょうか。もちろん議事録にはプーチン首相の話は残していきます。

■石原慎太郎東京都知事

ルシコフ議長、大変失礼しました。これをみましたら会議の中にもトルコまで入れろという説もありまして議題になると思いますが、そうするとまさしくアジアの真ん中ということになります。ロシアが広すぎて概念的に私が間違っていました。失礼しました。

■麻生渡全国知事会会長

共同声明はこれでよろしいでしょうか。これでとりまとめたいと思います。

■中川浩海事務総長

みなさん、お待たせ致しました。さきほど取りまとめました共同声明を両国を代表いたしまして日本側は麻生全国知事会会長、ロシア側はルシコフロシア21世紀委員会議長に署名をお願いしたいと思います。ただいま文書をお持ち致しますので、署名をお願いいたします。

■両国代表署名

日本側：麻生渡全国知事会会長

ロシア側：ユーリー・ルシコフロシア21世紀委員会議長

■中川浩明事務総長

ありがとうございました。それでは締めくくりの挨拶を両国の代表をお願いしたいと思います。それでは麻生会長お願いします。

■麻生渡全国知事会会長

今日はルシコフ議長をはじめロシアのこのような知事さんをお迎えしまして非常に活発な我々地域間の交流の現状そして発展の方向について意見を交換し、また将来について方向を確認する会議となったわけでございます。

私達のこのような地域間、知事間の交流というのは国家間の交流に加えまして、非常に重要な両国の友好の基礎を築くものであります。それだけに是非今後の長きにわたります日本とロシアの友好発展、お互いの繁栄のためにこのような努力を続けていく、これを確認し中断されておりました我々の日本とロシアの知事会議を再開し、来年にはモスクワ市で開会をするということが確認されました。

このような大きな成果を収めることが出来まして、心から喜んでおります。そしてこのためにわざわざ来日いただきました皆様に心から感謝申し上げ、プーチン首相におかれましてはわざわざこちらに来られまして、この祝辞を頂き今後の方針についてのお話を頂きましたことについても心から感謝申し上げる次第でございます。本当に皆様ありがとうございました。

■ユーリー・ルシコフロシア21世紀委員会議長

尊敬する麻生会長、尊敬する会議の参加者のみなさま、私達にとってとても重要な会議となりました。この会議を主催し私達の代表団を受け入れて下さったみなさまに対して、そして私達に向けられた配慮に対して、そしてみなさま方が作り上げてくださった友好的な雰囲気に対して感謝の言葉を述べたいと思います。

昔のことを思い出しました。この会議のことについて思い出したことがありました。

プーチン首相が賢人会議で私達を呼び出したことがありました。私達のこれまでの日本とロシアの経済分野の関係というのは、いわゆる対外貿易高で表されておりました。それはロシア連邦のなかで日本との貿易高というのは0.3%でありました。そしてその後このロシアと日本の関係は良い方向へと、特に経済協力において、そして貿易において良くなりました。また、人道分野での関係も良くなりました。観光客の人数も増えました。また教育分野での文化関係も良くなりました。しかしながら今あるレベルというのはまだ充分ではないと思っております。二つの国互いに隣国である国、量的にみて隣国である私達が思っているレベルにはまだ達していないと思っております。

国家間において私達は日本の地方と日本の県とロシアの連邦構成体の州との関係というのは今日の私達の結論によって新しい段階になったと考えております。私達の日ロ会議が定期的に行われる事になりました。そしてもちろんこの協力を実際にしてどのように行うか、新しい課題がだされるかと思えます。日本とロシアの地方とがより密接な関係が強まるということは絶対的に有益だと確信しております。共同の行動というものが日本とロシアの地方がいくつかの問題に対しお互いに共同の問題を解決するといことは私達の協力が実現することであります。日本のみなさまにこういう協力が実現することから願いたいと思えます。

■中川浩明事務総長

本日の会議をこれで終了したいと思えます。引き続きこの場で記者会見を行いたいと思えます。

3. 記者会見

■両国代表者によるまとめ—麻生渡全国知事会会長

今日の我々の知事会議、これは明確に共通の認識としまして、国家間の外交関係、交流は非常に両国の友好のために必要不可欠なことであります。

しかし、同時に我々は隣国であります日本とロシアが、さらに幅広く深く友好の基礎を固め、また将来の繁栄を共にしていくためには、我々の地域間交流が非常に大切であり、また相互理解の重要な基礎をなすものであり、かつ相互協力ということがお互いの発展に不可欠であるという共通の認識を持つことが出来ました。そしてそのような認識のもとに、今日は参加しておられる各知事さん方からそれぞれの州なり、県なり、都なりの状況について説明がなされ、またそれぞれの地域のロシアあるいは日本との関係についての現状及び将来の方向、希望する発展の方向についての報告があったわけでございます。

それぞれ非常に実態に即し、具体的な話であり、大変有益な報告であったと考えております。

そしてその報告の中には、非常に重要な提案が多く含まれておりました。これを私達は是非お互いに協力しながら、相互に理解しながら具体化していく、実現をしていくことが非常に大切であると考えております。そのようなことをさらに進めますためにも、この地域間会議を再開しまして、来年モスクワでやっという、ということも合意がなされたわけです。このようなことございまして、今日は、将来の長きに渡ります我々二国間の非常に重要な関係、相互の協力、そして相互の繁栄のための重要な会議であったと考えております。私達は今日の会議の成果を基礎にいたしまして、一層の地域間協力を進めて参りたいと考えている次第でございます。

■両国代表者によるまとめ—ユーリー・ルシコフロシア21世紀委員会議長

どうもありがとうございます。わたしの意見はわたしの印象というのは、今、麻生会長がおっしゃったことと同じです。わたしが付け加えたいことは、ロシアの憲法は地域というのは独立組織というものを経済関係、そして文化社会関係、特にそういうものを独自で行う権利というものを持っております。

また、対外貿易もそして対外国との関係も、そして物産品の買い付け、販売につい

でも独自の権利をもっています。これは私達にとっては重要なファクターです。そしてそれは官僚主義がなんらかの結論を出すときに干渉がより少なくなるということです。たとえばそれは製造の問題に関して、貿易などの問題に対し、官僚達の干渉が少なくなり自分達独自の結論を出すことが出来、そしてしかるべき地方との関係を発展させることが迅速でできるということの意味をしています。

今日の会談というのはとても情動的にたくさんの情報が含まれており、私達はとてもおもしろく有益な情報を得ました。それは日本の都道府県が持つ可能性潜在性に対する情報でありました。私達はまた実際にロシアの地方で現在実施されているプロジェクトについても聞く事が出来ました。

もちろん、ここに出席している地域だけが日本に向けて活動しているわけではありません。ほかにも日本と協力を活発に行っている地方があります。今日の会議におきまして、私達はいわゆる原点に立っているというわけではなくて、原点からすこし前進している、そして速度は少し進歩が速まっている、私達はこの進歩の速度を速めるためには、全国知事会と21世紀ロシア委員会が活発に協力していくということにかかっていると思います。ですから、両者のこの活発な協力というのは大きな意味をもっていると思います。この会議が定期的にシステムティックになることがわかりました。

私達はこの会議を続けること、日ロ会議、つまり共通の仕事を定期的にシステムティックに行うことがとても重要であることを知り、行うことを決定しました。そしてモスクワで日本の知事の代表団のみなさまをそして全国知事会の会議の代表団のみなさまをここで私達が感じたような暖かい気持ちで組織面でも優れた形でみなさまをお迎えしたいと思います。ありがとうございました。

■質問—産経新聞社 佐々木

北方領土問題についてお聞きしたいと思います。

日ロ関係が高い次元に推移するには北方領土問題の解決が重要かと思います。日ロ双方にお伺いしたいのですが、日本側には麻生会長と高橋知事にお伺いしたい。この意見交換会が北方領土問題とどう折り合いをつけるのかという方針があれば教えて欲しい。また見解を教えてください。

ロシア側にはルシコフ市長にお伺いしたいのですが、ルシコフ市長は昨年、「千島症候群」という本をお書きになって、二島返還、二島引き渡しで解決を試みたいという見解をお持ちかと思いますが、ルシコフ市長の見解をお伺いしたい。

■回答—麻生渡全国知事会会長

北方領土問題につきましては、日本はかねてから歴史的に見ても四島については日本の領土ではないかという主張をいたしておりますが、これにつきましてはまたロシア側は別の見解を持っているという状態が続いているということですが、私達はこの問題はぜひ解決したいと強く思っている次第でございますが、そしてその解決の中身についてですが、これはやはり交渉で相互理解のうえで解決をしていくというのが最も基本であると考えております。そしてこの問題が解決しますと相互の関係は飛躍的に良くなっていくと考えております。その意味で今日はプーチン首相もこられておりますけれども、是非今の非常に大きく発展しつつある日本とロシアの関係をさらに強固にし、またさらに飛躍させるためにもこの問題の解決に一層のご努力を頂きたいと強く期待をしております、希望致しております。

■回答—高橋はるみ北海道知事

ご質問をいただきましたのでお答えさせていただきます。先ほどの意見交換会の時にも申し上げたのですが、この問題を解決して日ロ双方で平和条約を締結するといことの実現というものを我々道民もこころから願っております。

とりわけ私達が一番気になっておりますのが、旧島民の方々の高齢化ということがあります。平均年齢で70代の後半になっておられる方々が故郷を思う気持ちを多く抱きながら北海道のなかにたくさん暮らしておられます。我々自治体としてできます

ことはこの問題の解決につまましての環境整備であります。そのためにも人と人との交流、あるいは青少年レベルでの交流こういったことを深めて相互理解を深めるなかでなんとか領土問題の解決にむけての環境整備をしっかりと行きたいと考えているところでございます。

■回答－ユーリー・ルシコフ ロシア21世紀委員会議長

この問題に関していくつかの提案をしていきたいと思えます。

第1番目に領土問題というのは、私達の権利のなかでいうならば、何らかのこの問題の結論について言うことは出来ないと思えます。何らかの紛争があったとすると二つのちがった立場というのがあります。このような立場に基づいて厳しい態度をとるとすると決して、だれもこの紛争を解決することは出来ないと思えます。

この問題に関しての本当に困難な複雑な歴史があります。千島シンドロームという本ですが、ここに居ますチトフ事務局長というのは日本の学者であります、日本の歴史特にクリル諸島の問題であります、朝日に対しましてこの本を出版し十分研究し、そしてこの問題の歴史を重大に真剣に研究し調査し、そうしていただければ私達は問題に対し応える用意があります。歴史的な面からみても1956年に当時のフルシチョフ氏のこの問題に関する発言がありました。

現在では、この問題というのは未解決の問題となっております。どちらも両当事者も互いに近寄らないかぎりはこの問題は決して解決しないと思えます。私は確信していることですが、この問題というのは長い間わたしもかかわってきましたし、日ロ賢人会議で議長をつとめておりましたが、この日ロ賢人会議においてロシアと日本の21世紀の関係について様々な問題について日ロ賢人会議で話しあってきました。私はこの問題の解決につまましては、歴史的な真実の評価というだけでなく、客観的な原点というのをもっていませんと思っております。

私としてはさまざまな分野において日ロの協力を発展させていくか、もしくはつい最近言ったことですが、二つの隣り合った国が互いに全く協力をしないで自分の一方的な形でこの一方が問題を解決したいと思っているとしたら、全く協力が無いとしたら、互いが歩み寄りというような実際的な措置というものは絶対にないでしょう。私としてはロシア21世紀委員会の議長として私にできることは互いの関係を発展させること、日本とロシアの幅広いコンタクトを作り、そして互いの相互信頼の体制を作ることです。そして、この問題を将来解決出来るための条件を作ることです。

今日言えることはこれくらいです。たとえば、経済協力というのがありますが、最初に島の問題を出すとすると、他の問題は全く解決しなくなります。これは私が確信していることでもあります。日本の地図を見ますと、この問題というのはナショナルの無条件の目的となっているような形になっていると思えます。そうすると討議をするとか妥協するとかという可能性を奪ってしまうことです。これは私の確信であります、質問に対するわたしの見解は以上です。

■回答－アレクサンドル・ホロシャヴィンサハリン州知事

こんにちは、尊敬するみなさま、先ほど頂きました問題は直接私の州に関係する問題ですから、お答えをさせて頂ければと思えます。

皆さん、ご存じだと思えます、本日の意見交換会は長い間中止されていたあとに再開されたものです。昨日の暖かな歓迎を受けて始めることが出来ました。暖かな雰囲気のもとこの会議を始めることができたことは大変嬉しく思っておりますし、大切に思っております。

私が言わなくてはならないことはルシコフ市長に賛成ですが、政治のテーマは本日のテーマではなかったということです。もちろん協力の一部ではあります、今日はさまざまな状況のもと議題にあげることはなかったのです。この領土問題というのは両国政府間の指導者の間で話し合われております。是非私からも説明したいと思えます、優秀な政治家というのは上手に妥協出来る人だと思っております。どういう明日を築くのか、というのは誰も予測することはできません。でも私達は相談をし、話し

合いをしていくことが大事です。ただこの問題において拙速は正しくないと思います。3. 5島とか2島とかそういう問題については急がず丁寧に時間を掛けて相談し、話し合いしていくなかで交流していくことが大事だと思います。政治のレベルではなく島民のレベルで人と人との交流の間で解決の道を捜していくことが大事だと思います。ですから私の役職としてわたしからお答えさせて頂きたいと思ったわけであります。ですからこの問題の解決、島民の人達の生活環境の状況を私達は解決しなくてはならないし、そのために努力していきたいと思っております。

■質問－新潟日報 原

海州地方ダリキン知事にお伺いします。新潟とザルリノで日本海横断航路というフェリー航路の竣工に向けた動きがあります。試験運航まで行っているのですが、実現はまだ至っていないのが実情ですが、こうした横断航路の将来の可能性と課題についてどのようにお考えかお教えください。

■回答－セルゲイ・ダリキン沿海州知事

ありがとうございます。私達は既に日本の日本海沿岸知事と会っておりまして、いわゆる新潟とソクチョ、ザルビノ、新潟は日本でソクチョというのは韓国であります。ザルビノというのは我が国の一番南の方に当たる東海岸の港であります。私達はこのフェリー及び乗客、貨物顧客のルートというのは今後とも拡大していくことと思っております。貨物の量もあります。また、新潟の知事に対しましてこの計画に対して支援をして下さっていることに感謝しております。